

事務事業 No./名称	<input checked="" type="checkbox"/> サービス部門 教育-11 <input type="checkbox"/> 支援部門 生涯学習センター管理運営事業						
主管課	教育総務課	関連課					
分野名	生涯学習						
目標 (目標値)	健やかで心豊かに暮らせるまち 豊かな生涯学習社会の創造を目指します。						
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考		
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
事業の対象者数	575,308人	644,560人	580,000人				
運営資源状況	決算値(千円)	167,027	177,431	178,552			
	(国・県)		7,891	0			
	(負担金等)	44,795	45,205	41,778			
	(一般財源)	122,232	124,335	136,774			
	人員配置数	3.6	3.6	3.6			
	人件費(千円)	29,508	30,917	31,504			
	協働のパートナー	鎌倉市生涯学習推進委員会	鎌倉市生涯学習推進委員会	鎌倉市生涯学習推進委員会			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	196,535	208,348	210,056			
	市民1人当りの経費(円)	1,109	1,176	1,186			
	対象者1人当りの経費(円)	342	323	362			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
利用者数	△	目標値	57万9千人	58万	58万	58万	58万5千人
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	62万人	58万人	64万5千人	57万5千人	

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	
生涯学習センター運営事務(173)	24,434千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E			
	事業の概要	生涯学習センター管理業務補助嘱託員の配置や消耗品の購入など、学習センター運営業務				
生涯学習センター推進事業(174)	15,735千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E			
	事業の概要	生涯学習センターで実施する各種講座・イベント等の企画運営、生涯学習情報誌「鎌倉萌」の発行、生涯学習センターフェスティバルの開催などの生涯学習推進事業				
生涯学習センター管理事業(175)	126,858千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E			
	事業の概要	生涯学習センターの総合管理業務委託、各所修繕及び生涯学習ネットワークシステムの保守管理など、施設の維持管理業務				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	・鎌倉学習センターは築後30年が経過し、耐震改修を含めた施設・設備の予防修繕が必要である。 ・生涯学習推進事業委託の内容について検討を行っていくとともに、幅広い学習情報の提供や指導者の育成を支援して区必要がある。		
課題解決のための取組	・優先される修繕について、予算確保に向けた事務を進めた。 ・市内で開催される各種講座・イベントの情報及び生涯学習指導者情報を掲載した「生涯学習ガイドブック」及び情報誌「鎌倉萌」を発行・配布し、広く市民に周知した。	取組の結果	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題	・市の財政状況により、鎌倉学習センターの長期的な修繕計画が進められない。また、各センターの貸出機器の更新や施設の維持修繕が十分に行えない。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了	
	➡	②妥当性 ○		財政状況等により、施設の予防修繕が十分ではないが、日頃からきめ細かく施設の点検・整備を行うことで適正に施設管理を行っていきたい。 また、生涯学習推進委員会との連携を深め、生涯学習推進事業の充実・見直しを図っていく。	課長等名	
		③有効性 ○			↓	教育総務課担当課長
		④公平性 ○				B

